

# 日本政治学会 会報

The JPSA News

No.45

MAY.2003

## 2003年度 研究会企画について

企画委員長 中 邨 章

2003年度の政治学会は、10月4、5日の両日にわたって、埼玉県所沢市にある尚美学園大学を会場に開催されます。今年度の企画委員会は、わたくしを含めて12名で構成されております。これまで委員会を3回開催し、テーマの設定をはじめ報告者や討論者の選定などに関して、会合を重ねてまいりました。その結果、今年度の研究会をつぎのような要領で進めることになりました。

第1日目の共通論題は、「政治学と法律学の競合と共生」がテーマです。近年、政治と法律の関係が再認識されています。共通論題はそうした時代変化を背景に、憲法の専門家や法律の実務家、それに政治史や政治行政学の会員を中心に、政治学と法律学が共有する部分や競合するところを、歴史や現状分析などを通して検討していこうと考えています。形式はパネルディスカッションになります。第2日の午前中に開催される共通論題Ⅱは、「グローバル化の挑戦と国際秩序」を主題にしています。これは、最近の世界情勢を反映し安全保障をはじめ、世界秩序の形成を核に検討する会になる予定です。

分科会は例年と同様、11のセッションが用意されます。そのなかには、韓国、ならびに、アメリカの政治学会との交流を図るための分科会も含まれます。自由論題に関しては、これも通常の形式を踏んでいます。今までと同じように公募で報告者を募集しました。

以下、簡単に分科会のあらましをご紹介します。

分科会Aは政治過程を中心にしたセッションです。政治の閉塞性が言われて久しいのですが、この研究会では「民主主義の機能不全」を検討します。関心は、政党間と国会審議、それに政策過程です。それらの側面に注目しながら、民主制の機能不全をとり上げます。

分科会Bは比較政治を扱います。アメリカやイギリス、それに日本を対象にしながら、それぞれの国の政権を分析し、統治スタイルやリーダーシップの類型を抽出するのが、このセッションの狙いです。

分科会Cは行政学が主眼になります。「科学技術と政策（決定）過程」がタイトルです。テーマとしてとり上げられるのは、医療・薬事行政、原子力政策、バイオセーフティなど、きわめて今日的な課題です。

分科会Dでは「政治空間における追悼と慰霊」を素材に、日本や東洋の政治史を討論の対象にします。共同体や組織、それに国家はしばしば、その構成員を悼み死者の霊を慰めることから、組織の維持を図ろうとします。ここでは、そうした事例を日本や韓国にもとめ、追悼や慰霊の政治的な意味を考えるつもりです。

分科会Eは韓国政治学会と共同で企画するセッションですが、今年度は「現代日本と韓国の政治リーダーと政治リクルートメント」をテーマにする予定です。韓国から報告者1名、討論者1名が来日されますが、日本側も同数の布陣で研究会を進める手筈になっています。

以上が研究会の第1日目です。

2日目に入って研究会Fは、欧米政治思想史を題材にします。今年度は、「フランス語圏の政治思想史の諸相」に対象を特に限定することで、より深い議論と考察を試みます。その担い手として、3名の報告者が研究成果の報告をする予定になっています。

一方、政治史を軸にする分科会Gは、グローバル化が国家に与える影響について検討します。その中でも特に、統合と分裂が同時進行するなど変化のいちじるしいヨーロッパをとり上げ、EU統合などがヨーロッパ各国に与えたインパクトを検証します。

分科会Hは「政治理論」のセッションです。今回は、近年再び注目されつつある多元論に焦点を当て、価値の多元性とリベラリズムの行方、ダールの理論、それにポストモダンの多元論などを検討していくつもりです。

分科会Iは地方自治を中心にしたセッションです。

市町村合併や地方財政の危機などがさげばれ、日本のデモクラシーが基本の部分で動揺する時代になっています。自治体政治の意義と課題を検討していこうと考えています。

それらの分科会のほかに、アメリカ政治学会と共同で実施する分科会Jがあります。今年度もアメリカから2名の研究者が報告をする予定になっています。

最後は自由論題の分科会Kです。自由論題には今年度、あわせて6件の応募がありました。委員会では、それらを慎重に審査し、4件について報告をお願いすることにしました。

企画委員会の皆様のご協力によって、以上ごく簡単にご紹介しましたような研究会の素案がまとまりました。まだ細部が確定していないところもありますが、まもなくご案内を会員の皆様にお届けできるはずになっております。会員の皆さまには、秋の研究会に奮ってご参加いただくようお願い申し上げます。

## 2003年度日本政治学会研究会プログラム

### 共通論題Ⅰ パネルディスカッション『政治学と法律学の競合と共生』

司会 今村都南雄（中央大学）

報告 平松 毅（関西学院大学）「法律学と政治学の交錯領域の検討」

萩原能久（慶應義塾大学）「政治学と法律学の歴史的、思想史的検討」

五十嵐敬喜（法政大学）「法・政治と公共事業。法科大学院の意義と限界」

森田 朗（東京大学）「法律学、政治学の確立と展望」

### 共通論題Ⅱ 『グローバル化の挑戦と国際秩序』

司会 中西 寛（京都大学）

報告 田中明彦（東京大学）「安全保障」（仮）

渡辺啓貴（東京外国語大学）「ヨーロッパから見た世界秩序」（仮）

大矢根聡（同志社大学）「国際政治経済」（仮）

討論 赤根谷達雄（筑波大学）

### 分科会A 『民主主義の機能不全』

司会 小林良彰（慶應義塾大学）

報告 新川敏光（京都大学）「政党間競争における機能不全」

増山幹高（成蹊大学）「国会審議における機能不全」

西川伸一（明治大学）「政策形成過程における機能不全」

討論 猪口孝（東京大学）

## 分科会B 『統治スタイルと政策課題』

- 司会 大六野耕作 (明治大学)  
報告 浅野一弘 (札幌大学) 「ブッシュ政権と政策課題」  
安 章浩 (尚美学園大学) 「ブレア政権と政策課題」  
濱賀祐子 (明治学院大学) 「小泉政権と政策課題」  
討論 荒木義修 (松阪大学)

## 分科会C 『科学技術と政策 (決定) 過程』

- 司会 城山英明 (東京大学)  
報告 藤田由紀子 (専修大学) 「医療・薬事行政における技官制度」  
鈴木達治郎 (慶應義塾大学) 「日本のプラトニウム政策過程」  
平川秀幸 (京都女子大学) 「バイオ・セーフティーと国際関係」  
討論 薬師寺泰蔵 (慶應義塾大学)  
新藤宗幸 (千葉大学)

## 分科会D 『政治的空間における『追悼』と『慰霊』』

- 司会 西尾林太郎 (愛知淑徳大学)  
報告 本康宏史 (石川県立歴史博物館) 「戦前期日本の慰霊空間と民衆意識」  
赤澤史朗 (立命館大学) 「戦後日本の『慰霊』と『追悼』」  
李 分一 (吉備国際大学) 「『慰霊』と『追悼』をめぐる日韓比較」  
討論 (検討中)

## 分科会E 『現代日本と韓国の政治リーダーと政治リクルートメント』 (韓国政治学会との国際交流セッション)

- 司会 (検討中)  
報告 飯尾潤 (政策研究大学院大学) 「現代

日本の政治リーダーと政治リクルートメント」 (仮)

(韓国政治学会代表) 「現代韓国の政治リーダーと政治リクルートメント」 (仮)

- 討論 辻中豊 (筑波大学)  
(韓国政治学会代表)

## 分科会F 『フランス語圏の政治思想史の諸相』

- 司会 関口正司 (九州大学)  
報告 宇羽野明子 (大阪市立大学) 「『エッセー』にみられる宗教戦争期の政治思想の諸相」 (仮)  
小林淑憲 (政策研究大学院大学) 「ルソー『人間不平等起源論』の『献辞』における理想と現実」 (仮)  
堤林 剣 (慶應義塾大学) 「バンジヤマン・コンスタンのアナクロニズム批判のアナクロニズム—『征服の精神』におけるナポレオン批判をめぐる」  
討論 松本礼二 (早稲田大学)

## 分科会G 『ヨーロッパ政治における統合と分裂』 (仮)

- 司会 杉本 稔 (日本大学)  
報告 佐川泰弘 (茨城大学) 「ヨーロッパ統合をめぐる葛藤、統合への適応：フランスの場合」 (仮)  
河崎 健 (上智大学) 「ヨーロッパ統合のドイツ内政へのインパクト—社会国家改革の議論を中心に」 (仮)  
吉野 篤 (秋田経済法科大学) 「イギリスにおける反ヨーロッパ主義論 (ヨーロッパ懐疑論)」 (仮)  
討論 岩崎正洋 (杏林大学)

## 分科会H 『多元論再訪』

- 司会 飯島昇蔵（早稲田大学）  
報告 伊藤恭彦（静岡大学）「通約不可能な価値の多元性とリベラリズムの行方」  
岡田憲治（専修大学）「プルーラリズムと重層性～R・ダールの“憲法”理解を中心に」  
向山恭一（新潟大学）「アゴーンの多元主義の政治理論」  
討論 杉田 敦（法政大学）

## 分科会I 『分権改革後の地方自治』

- 司会 笠 京子（香川大学）  
報告 磯崎初仁（中央大学）「第一次分権改革の成果と課題」（仮）  
市川喜崇（同志社大学）「第一分権改革についての理論的検討」  
討論 大森 彌（千葉大学）  
北山俊哉（関西学院大学）

## 分科会J（アメリカ政治学会との国際交流セッション） （詳細未定）

## 分科会K 『自由論題』

- 司会 中村昭雄（大東文化大学）  
報告 宮下 豊（神戸大学大学院博士後期課程）「モーゲンソーとシュミット—政治の概念とその限界付けをめぐる—」  
石井貫太郎（目白大学）「リーダーシップの政治学」  
小笠原欣幸（東京外国語大学）「標準偏差を用いた台湾選挙分析」  
白鳥 浩（静岡大学）「現代国民国家の変動—福祉国家化と国際化—」  
討論 馬場 健（聖学院大学）  
佐藤 学（沖縄国際大学）

本年度の日本政治学会研究会は、10月4日（土）、5日（日）の両日、尚美学園大学で開催されます。共通論題、分科会の開催日程は以下の通りです。

10月4日 共通論題I

分科会A, B, C, D, E

10月5日 共通論題II

分科会F, G, H, I, J, K

## 世界政治学会（IPSA）へのお誘い

IPSA福岡大会組織委員会事務総長 蒲島郁夫

皆様もご存じのように世界政治学会（IPSA）の総会は3年に一度開かれます。今回は6月29日から7月4日の5日間、南アフリカのダーバンで開催されます。大会のテーマはDemocracy, Tolerance, Justice: Challenges for Political Changeで、人種間の厳しい対立のなかで、民主化を着々と進めている南アフリカに相応しいテーマと言えましょう。

かつて執行委員会のメンバーとして、会場となるダーバンの国際会議場と隣接するヒルトン・ホテルを視察したことがありますが、会議場は世界でも最先端の施設を備え、またホテルも快適で感銘を受けました。物価も安く、日本では高価な南ア特産のルイボス・ティなどを沢山買い込んできた思い出があります。

成田からダーバンに行くルートはシンガポール→ヨハネスブルク経由とヨーロッパ→ヨハネスブルク経由のルートがあります。それぞれに長短はありますが、シンガポール経由の方が安く、ディスカウント航空券で20万円程度です。IPSA大会の期間中や大会後にサファリー・ツアーなど様々なオプション・ツアーも企画されていますので、是非この機会に、多くの会員の方々がアフリカを訪問されることを、IPSA執行委員会を代表して心からお願い申し上げます。

実は2006年にIPSA福岡大会を控えている日本政治学会にとって、ダーバン大会は3つの意味で他人事ではありません。第一に、日本政治学会はダーバンにおいて予算案を含む詳細な計画書を提出しなければなりません。約一億円に上る収入計画をどのように立てるかは頭の痛いところですが、佐々木毅・五百旗頭真・両組織委員長の優れたリーダー・シップの下で募金目標を是非達成したいと思っています。

第二に、ダーバンで新しいIPSA執行委員会が立ち上がります。私も2期6年の執行委員の任期を無事満期終了します。現在のところ、ドイツのマックス・カーゼ（Max Kaase）教授が次期IPSA会長に指名される予定です。IPSA福岡大会を控えて、日本代表の次期執行委員は極めて重要なポストです。日本政治学会の理事会は次期執行委員候補として大嶽秀夫・京都大学教授を指名しました。IPSA福岡大会を成功に導く素晴らしい人選だと思います。

第三に日本政治学会とIPSAの関係です。今年4月、モントリオールで行われた執行委員会で、IPSAの日本人会員がわずか4人しかいないので入会を勧めて欲しいと言われました。周知のようにIPSAは各国の政治学会の団体会員と個人会員からなっています。個人会員には3年会員（会費150米ドル）と1年会員（会費米60ドル）の2種類があります。お勧めは3年会員で150米ドル払うと、International Political Science Review（年4回発行）とIPSAの情報誌であるParticipation（年3回発行）が3年間送られてきます。そして、IPSA世界大会の参加費が大幅に安くなります。具体的には、早期参加登録した場合、非会員の参加費が210ドルなのに対して3年会員は125ドルで済みます。

IPSA福岡大会では日本政治学会総会も一緒に開催される可能性が強いのですが、今年中に3年会員に加入されれば、学術誌21冊に加えて3年後の福岡大会では参加費が85ドルの節約になります。入会の仕方が分からないという会員のために、IPSAの申込書を同封致しますので、皆様のご協力を心からお願い致します。

## イギリス政治学会派遣報告者公募について

### 国際交流委員会日欧交流小委員会

日本政治学会は、2004年度よりイギリス政治学会PSAとの交流を開始します。当初の計画は、毎年交代で派遣報告者をそれぞれの年次大会に招くというものです。2004年度は日本政治学会の代表がイギリス政治学会の大会に参加することになります。そこで、日本政治学会からの派遣として、イギリス政治学会大会に参加、報告いただける方を一名募集いたします。

2004年度イギリス政治学会は、4月6日から8日にかけて、リンカーン大学University of Lincolnにおいて開催されます。派遣報告者の大会期間中の宿泊費および大会参加費はイギリス政治学会の負担となります。ただし、往復旅費は派遣報告者個人の負担となります。なお、派遣報告者の論文テーマにかんしては、とくに特定の分野への限定はありません。選考は国際交流委員会でおこなわせていただきます。

以上のような条件のもとで、2004年度イギリス政治学会年次大会への参加、報告を希望される方がいらっしゃいましたら、以下の点を明記の上、国際交流委員会日欧交流小委員会の宮本までお申し込みください。

- 1、氏名、(勤務先およびご自宅の)住所、電話、ファックス、メールアドレス
- 2、所属機関、職名
- 3、報告を予定されている論文の題名(英語・仮題でけっこうです)
- 4、報告を予定されている論文の要旨(英語、A4一枚・400語程度)

なお、申し込みは日欧交流小委員会・宮本太郎まで郵送でお願いします。締め切りは、2003年9月16日(火)です(必着)。

申し込み先

〒060-0809

札幌市北区北9条西7丁目 北海道大学法学部  
宮本太郎

なお、詳細につきましては、宮本までお問い合わせください。問い合わせ先は以下のとおりです。

E-mail [taro@juris.hokudai.ac.jp](mailto:taro@juris.hokudai.ac.jp)

TEL 011-706-3928

FAX 011-706-4948

## 2002年度 第5回理事会記録

日時：2002年12月14日(土)13時30分～14時45分

場所：明治大学 駿河台校舎 リバティールーム

第5回理事会では以下の事項が報告、協議された。

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会

中邨2003年度委員長より、本理事会終了後、第1回の企画委員会を開催し、分担の確認等を行う旨の報告がなされた。

## (2) 年報委員会

渡辺2003年度委員長（常務理事代読）より、公募論文に関し最終的に5本の応募があり、現在審査中であることが報告された。また、御厨2004年度委員長（常務理事代読）からは、1月に年報委員会を開催すること、順調に作業が進展していることが報告された。

## (3) 国際交流委員会

久米委員長より、2003年度APSA交換プログラムの派遣及び受入れメンバーを決定した旨報告があり、了承された。日本からは内山融（東京大学）、堀内勇作（シンガポール国立大学）、岡山裕（東京大学）の各会員、アメリカからはJohn Ferejohn（Stanford University）、Nancy Burns（University of Michigan）の2氏がそれぞれ派遣される。2002年度日韓交流については、木村幹（神戸大学）会員を小委員長とし、磯崎典世（学習院大学）、出水薫（九州大学）、松並潤（大阪学院大学）、真淵勝（京都大学）、若畑省二（信州大学）各会員を委員とする小委員会を組織し、窪田明（東京福祉大学）、真淵勝（京都大学）の2名の会員を韓国政治学会へ派遣した旨報告が行われた。

## (4) 選挙管理委員会

石川委員長より、現在事務引継ぎ中である旨、報告があった。

## 2. 日本学術会議会員選出について

稲継常務理事より、現在学術会議自体の見直しとも関連し、次期会員候補の推薦手続きが停止されている旨報告がなされた。この報告を受け、加茂理事長より、次期会員候補推薦手続きが次回理事会までに開始された場合、従来どおり現理事・顧問を被選挙権者とし、現理事を選挙権者とする郵送投票で政治学会推薦候補を選出すること、開票は荒木・久米両理事の立会いの上、事務局が行う旨の提案がなされ、了承された。

## 3. IPSA世界大会について

小林IPSA組織委員会事務総長代理より、準備状況の報告とともに、日本学術会議からの資金援助を申請する前提として、隣接諸学会からの後援を求めたい旨の提案があり、了承された。また、これと関連し加茂理事長より、学術会議の国際会議派遣プログラムに対し、2003年6月南アフリカ、ダーバンでのIPSA大会に現IPSA執行委員でもある蒲島理事を派遣する旨の応募を行ったことが併せて報告され、了承された。

## 4. 国際交流プログラムの整理について

久米国際交流委員長より、現在の国際交流プログラムの問題点について報告を受け、今後の国際交流の進め方について議論が行われた。その結果、外部資金獲得努力を引き続き行い、資金が獲得できた年度については、当該経費をすべてこれにより賄うが、資金獲得が不調の場合は、一定範囲内で学会経費を充てることとした。併せて、イギリス政治学会からの隔年相互派遣プログラムの申入れについては、これを受け入れることとした。

## 5. 新入会員承認の件

以下、12名の入会が承認された。  
李鉉出、伊香俊哉、上神貴佳、大矢温、奥原武志、酒井英一、田辺高太郎、長久保如玄、中西寛（再入会）、飛矢崎雅也、真淵勝（再入会）、宮本融

## 6. 2003年度研究会の件

理事長より2003年度研究会を10月4・5日に、尚美学園大学で開催することが提案され、了承された。

## 7. 事務局報告

事務局より、第4回理事会記録を一部修正のうえ確定させることが提案され、承認された。

## 8. 次回理事会日程の件

次回理事会を、2003年3月15日(土)午後1時30

分、大阪駅前第2ビルにて開催することが承認された。

## 2002年度 第6回理事会記録

日時：2003年3月15日(土) 13時30分～15時

場所：大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室

第6回理事会では以下の事項が報告、協議された。

### 1. 各委員会報告

#### (1) 企画委員会

中邨2003年度委員長より、2003年度の政治学会研究会企画(案)が示された。細部の未確定部分は6月理事会までに最終確定することとし、企画案の大枠が承認された。

#### (2) 年報委員会

渡辺2003年度委員長より、前回理事会で報告した通り2003年度年報の論文公募には5編の応募があり、現在審査中であること、審査結果は今月末までに応募者に通知すること、また、特集のための最終の研究会を近々開催すること等の報告があった。

御厨2004年度委員長からは、2004年度年報委員として、飯尾潤(政策研究大学院大学)、大嶽秀夫(京都大学)、荻部直(東京大学)、竹中佳彦(北九州市立大学)、野中尚人(学習院大学・再入会手続き中)、原彬久(東京国際大学)、牧原出(東北大学)、竹中治堅(事務局・政策研究大学院大学)の各会員を委嘱し、編集方針の検討を行っていること、またこれまでのところ公募論文に5本の申し込みがあったことが報告された。

#### (3) 文献委員会

梅川2003年度委員長より、現在作業は執筆段階に入った旨報告がなされた。

また、2002年度委員長であった小野理事より、2002年度年報の「学会展望」に、岩波書店側の校閲過程で誤植が生じたこと、これについて2002年度文献委員長名で抗議し、善処を申し入れた旨報告がなされた。この問題について協議の結果、理事長から改めて岩波書店に対応を質すこととした。

#### (4) 国際交流委員会

久米委員長より、アメリカ政治学会派遣のあり方についてさらに検討を要する問題があること、また前回承認されたイギリス政治学会との間での相互交換プログラムについては、日本側からの派遣は2004年4月、イギリス側からの派遣は2005年度研究大会から開始することが報告された。

#### (5) 選挙管理委員会

石川委員長より、選挙管理委員の委嘱を進めているが、本理事会までに最終決定に至っていないため、早急に確定し議事録案送付時までに報告する旨説明があり、了承された。また、理事選挙の日程については前回同様のスケジュールで行う予定である旨、併せて報告された。

<付記> 理事会後同委員長から、伊藤重行(九州産業大学)、大河原伸夫(九州大学)、熊野直樹(九州大学)、黒木彬文(福岡国際大学)、前田俊文(久留米大学)、中道寿一(北九州市立大学)の各会員に選挙管理委員を委嘱したとの報告がありました。



## 2. 日本学術会議会員候補の選出について

稲継常務理事より、学術会議改革との関連で中断されていた第19期学術会議会員候補の推薦手続きが再開されたため、2月に理事の郵送投票による候補者の選出を行い、2月27日、荒木・久米両理事の立会いのもとで大阪市立大学において開票を行った結果、本学会から五百旗頭真、佐々木毅両顧問を推薦することとなった旨報告があり、了承された。なお、推薦人としては、蒲島・藤原・稲継の3理事（推薦予備人として久米理事）を指名したことが報告された。

## 3. 2002年度決算について

大西幹事より2002年度決算報告（別添）、品田監事より監査報告がなされ承認された。

## 4. 2003年度予算について

大西幹事より2003年度予算案（別添）の提案があり、原案どおりに承認された。なお、予算案の審議のなかで理事より、学会ホームページを作成すること、会費の引き上げをも想定しつつ学会機関誌を改革し、会員の発表機会を増やすことを検討すべきとの提案がなされ、前者については事務局で早期実現の方向で検討を開始すること、また後者については小野理事を座長とする学会機関誌改革検討委員会（仮称）を設け、検討することとした。また、若手研究者の発表機会の増加は、研究会企画についても必要であるという意見が出され、今後検討することとした。

## 5. I P S A世界大会について

I P S A組織委員会事務総長の蒲島理事より、6月末から7月初めに行われる南アフリカ・ダーバンでのI P S A大会のアナウンスに加え、2006年I P S A福岡大会の準備状況について報告がなされた。

## 6. 新入会員承認の件

以下、10名の入会が承認された。

石原直紀、伊丹謙太郎、上田耕介、宇羽野明子、瀧川修吾、田中聡一郎、仲内英三（再入会）、馬原潤二、森川友義、柳真弘

## 7. 事務局報告

事務局より、第5回理事会記録を原案どおり確定させることが提案され、承認された。

## 8. 次回理事会の日程

次回理事会は、2003年6月7日（土）午後1時30分より、日本大学法学部において開催することとする旨提案され、了承された。

<付記> なお理事会後、事情により次回理事会の日程を6月14日（土）、午後2時（法政大学を予定）に変更したい旨、理事長名で通知させていただきました。

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 2002年度決算（案）

### 一般会計

[収入]	予算額	通年執行額	差引
1 前年度繰越金	6,150,714	6,150,714	0
2 会費収入	11,000,000	11,343,693	-343,693
3 雑収入	3,000	173,537	-170,537
収入合計	17,153,714	17,667,944	-514,230

[支出]	予算額	通年執行額	差引
1 研究会開催費	1,350,000	1,350,000	0
A 研究会準備金	1,300,000	1,300,000	0
B 報告者礼金	50,000	50,000	0
2 委員会経費	780,000	780,000	0
A 年報委員会	210,000	210,000	0
B 企画委員会	210,000	210,000	0
C 文献委員会	190,000	190,000	0
D 国際交流委員会	170,000	170,000	0
3 理事会経費	20,000	17,730	2,270
4 ISPA学会分担金	400,000	379,450	20,550
5 事務局経費	660,000	556,670	103,330
A 理事長通信費	100,000	100,000	0
B 運営費	60,000	60,000	0
C 人件費	200,000	200,000	0
D 経常費	150,000	96,930	53,070
E 事務局移転費	150,000	99,740	50,260
6 学会事務センター委託費	1,400,000	1,289,229	110,771
A 業務委託費	1,210,000	1,095,349	114,651
B 事務通信費	190,000	193,880	-3,880
7 名簿作成積立金	800,000	800,000	0
8 国際交流基金への積立金	500,000	500,000	0
9 会報発行費	700,000	656,420	43,580
10 年報費	5,500,000	5,168,604	331,396
11 予備費	5,043,714	652,000	4,391,714
支出合計	17,153,714	12,150,103	5,003,611

次年度繰越金	通年収入	通年支出
5,517,841	17,667,944	12,150,103

### 一般会計資産

りそな銀行普通口座	2,989,594
郵便貯金総合口座	11,312
学会事務センター預け金	2,516,935
合計	5,517,841

### 別会計

費目	予算額	通年執行額	差引
1 名簿作成積立金			
収入			
1前年度繰越金	1,271,616	1,271,616	0
2本年度積立金	800,000	902,000	-102,000
3利息	384	29	355
収入合計	2,072,000	2,173,645	-101,645 (A)
支出			
1名簿作成費用	2,000,000	2,102,000	-102,000
2予備費	72,000	70,583	1,417
支出合計	2,072,000	2,172,583	-100,583 (B)

収支残高 1,062 -(A)+(B)

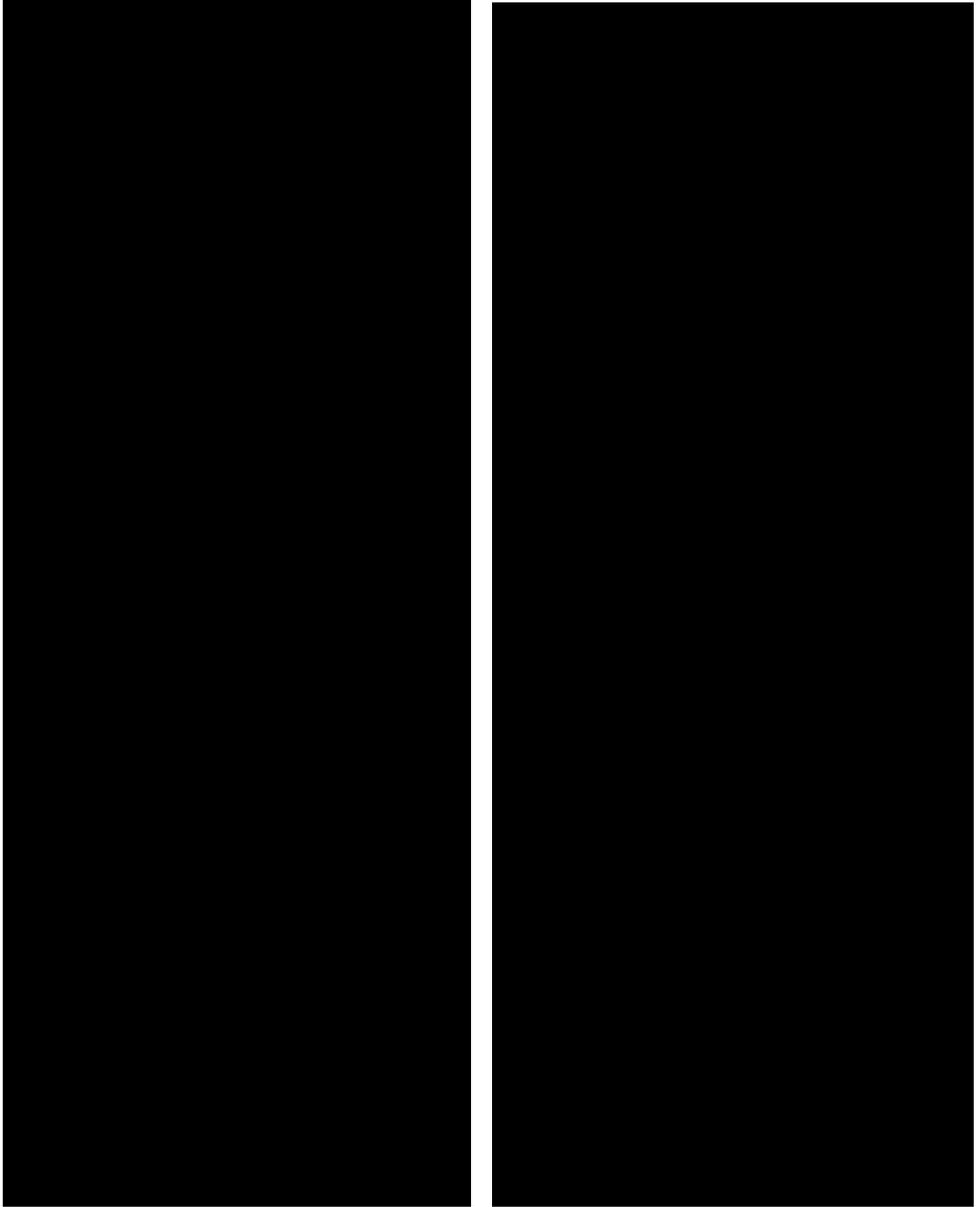
### 2 国際交流基金

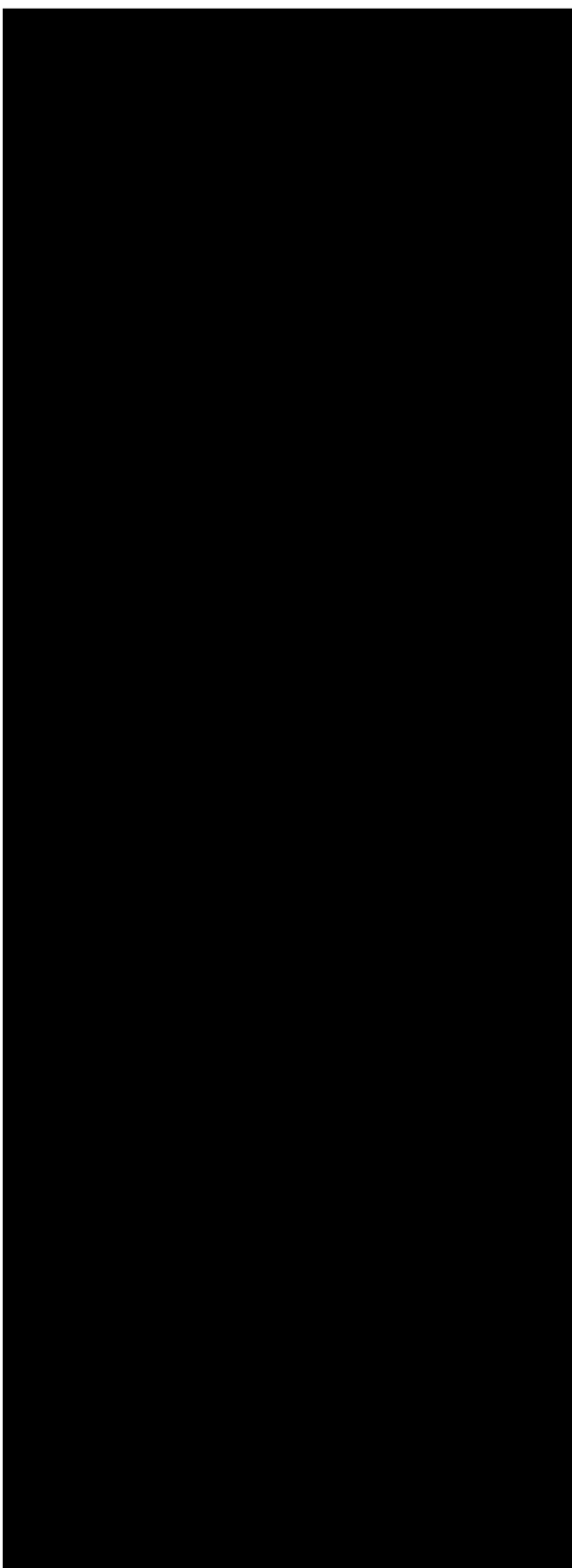
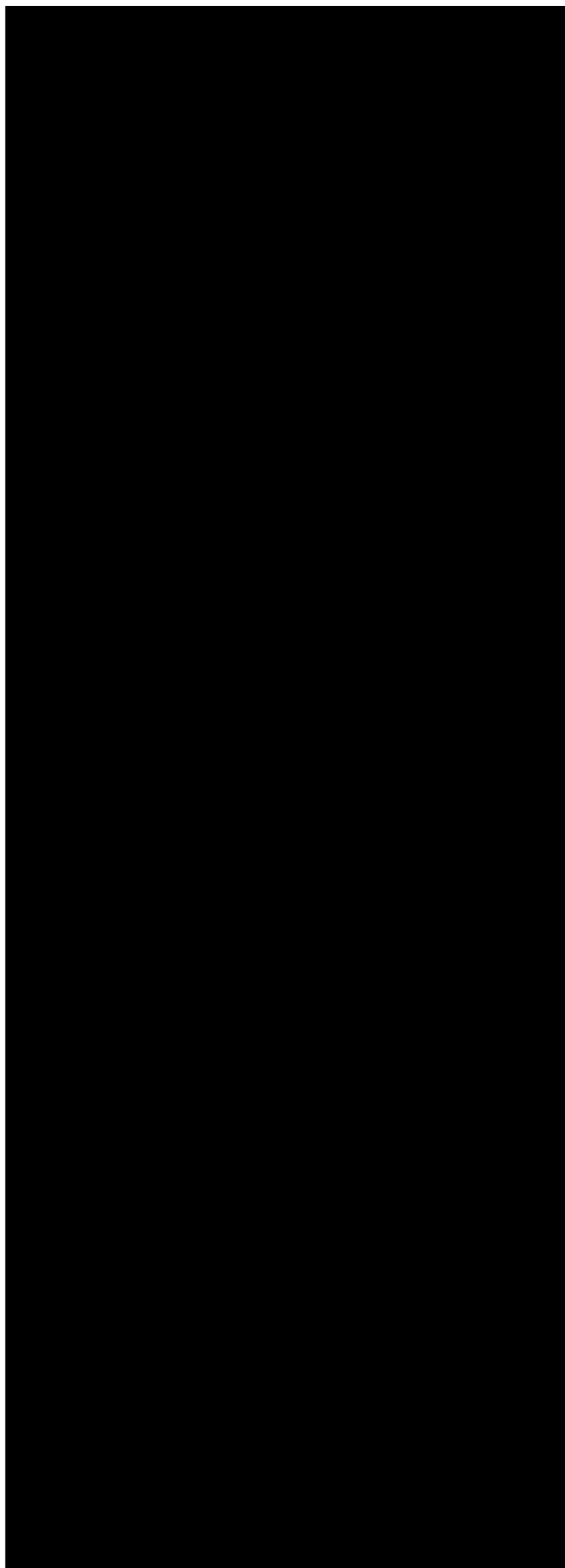
収入			
1前年度繰越金	22,410,374	22,410,374	0
2本年度積立金	500,000	500,000	0
3利息	124,626	2,104	122,522
収入合計	23,035,000	22,912,478	122,522 (A)
支出			
1執行計画	400,000	0	400,000
2予備費	22,635,000	840	22,634,160
支出合計	23,035,000	840	23,034,160 (B)

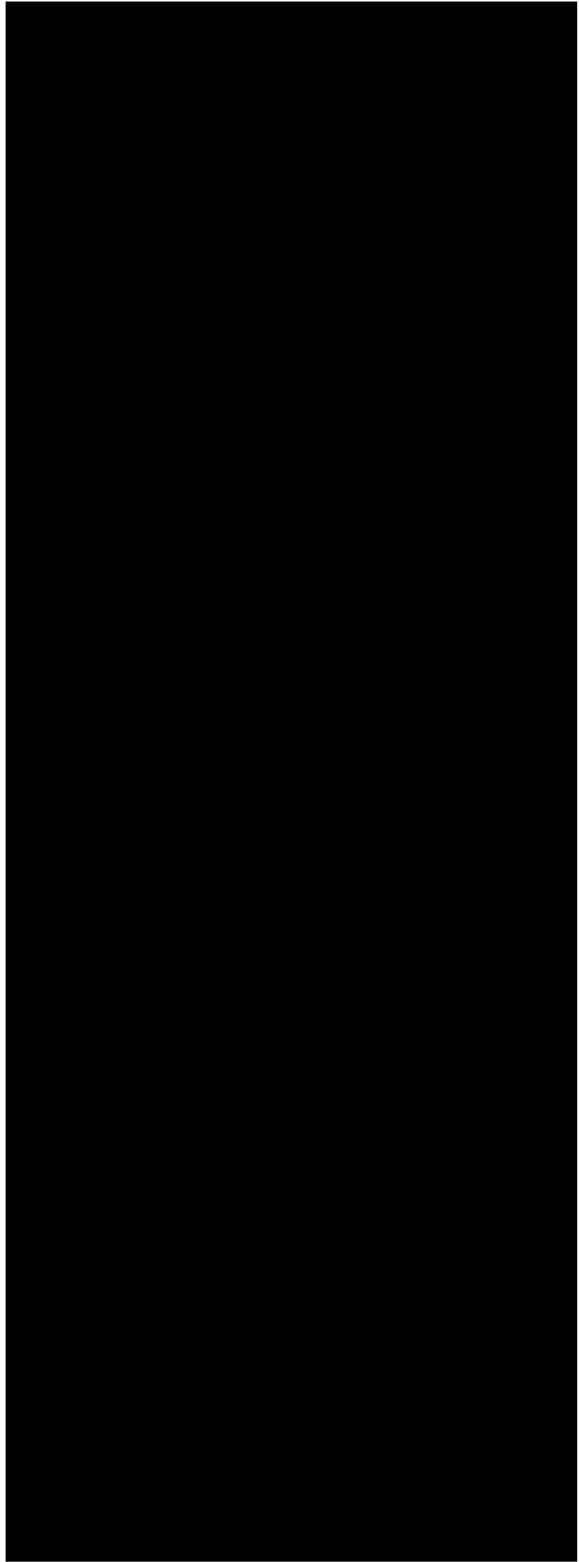
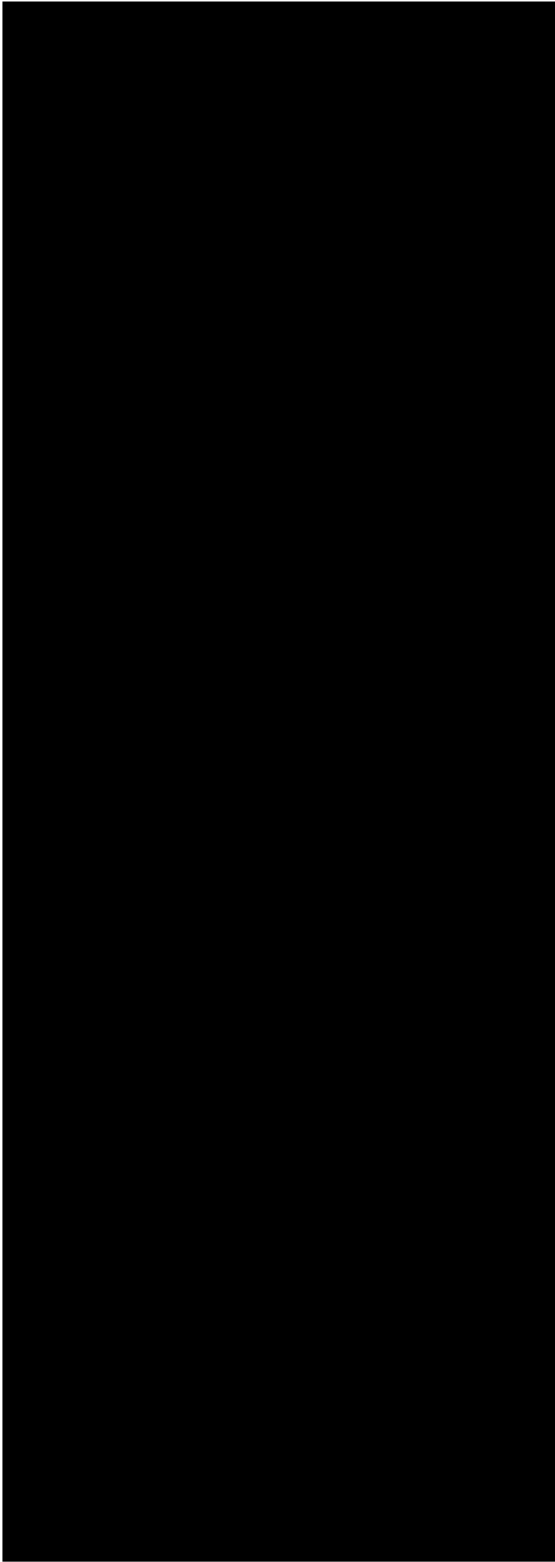
収支残高 22,911,638 -(A)+(B)

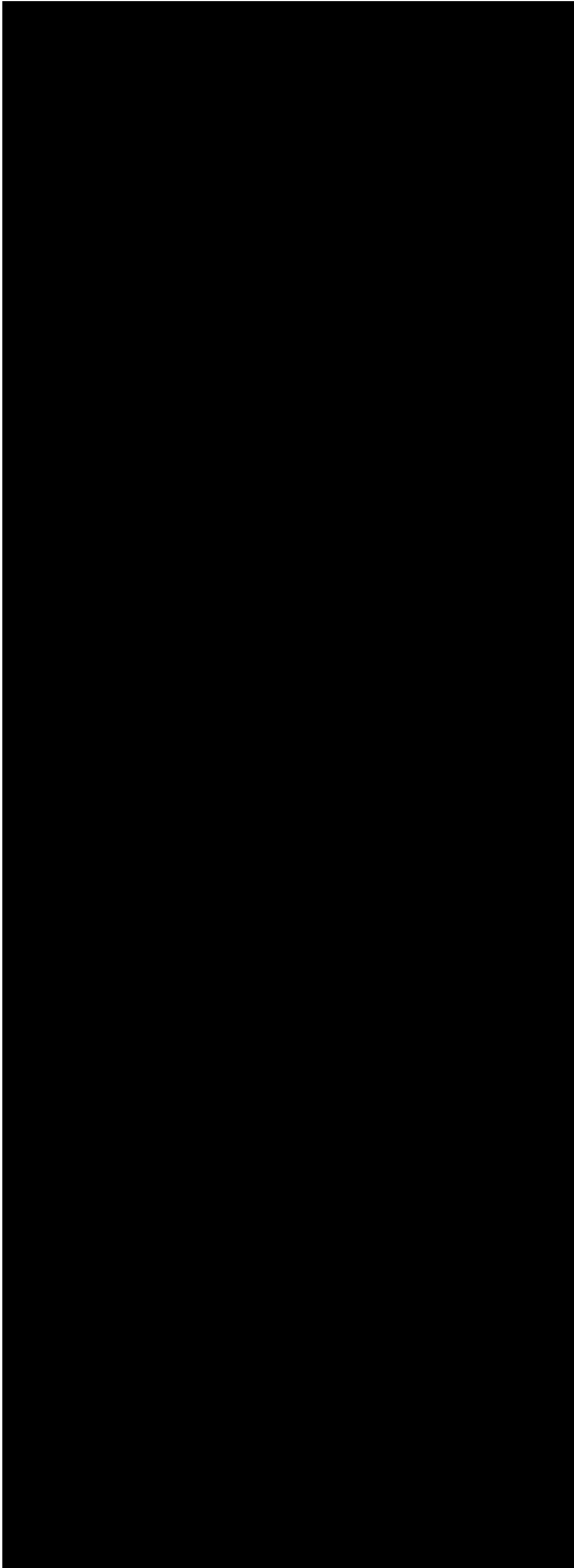


会員の異動









## 事 務 局 よ り

### 会費納入についてのお願い

年会費をまだ納めていただいていない会員の方が若干おいでになります。学会事務センターからのご案内させていただいておりますが、何卒速やかにご協力の程お願い致します。一般会員は7,500円、院生会員は5,000円です。

ご不明な点は学会事務センターまでお問い合わせください。

### 訃 報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

大島三郎氏 新潟大学名誉教授 政治理論、国家論  
1925年生

高瀬 学氏 政治哲学、政治思想史 1922年生

福壽幸男氏 政治過程論、政治理論 1926年生

山川雄巳氏 関西大学法学部教授 政治理論、政策  
分析 1932年生

中村義知氏 近代政治理論史、現代国家論 1926年  
生

村西義一氏 関西学院大学名誉教授 天皇制の研  
究、政治学方法論 1920年生

### 本号の目次

1. 2003年度研究会企画について…………… 1
2. 2003年度日本政治学会研究会  
プログラム…………… 2
3. 世界政治学会 (IPSA)  
へのお誘い…………… 5
4. イギリス政治学会派遣報告者  
公募について…………… 6
5. 理事会記録…………… 6
6. 2002年度決算…………… 10
7. 2003年度予算…………… 11
8. 会員の異動…………… 12
9. 事務局より…………… 16

2003年 5 月 30 日

発行 日本政治学会事務局

稲 継 裕 昭

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学法学部内

T E L & F A X 06-6693-5031

(財) 日本学会事務センター

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9

会員業務 (退会、住所変更、会費)

T E L 03-5814-5810

F A X 03-5814-5825

印 刷 (株) ひまわりぷりんと